

令和5年6月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	議席 番号	氏名	岩 村 恵 美 議員	1 / 1
発言項目		要 旨		答弁者
1	富士宮市の不登校児童生徒への対応	<p>少子化で児童生徒数は年々減少しているにもかかわらず、不登校の人数は増加している。不登校のために学校で勉強をする機会を失ってしまった児童生徒に対して、学校への登校を強制せず、それぞれにあった学習環境を保証するために2017年「教育機会確保法」が定められた。また令和元年には文部科学省においても「不登校児童生徒への支援の在り方について」が通知され、その中でも「学校に登校する」という結果のみを目標とするのではなく、とうたわれている。</p> <p>国は、今まで学校復帰が前提の政策を長い間執り続けてきた。そのことが、学校と距離をとっている子どもを追い詰めたり、自己否定感を持たせたりするマイナス面があることや、学校以外の学びの場も誕生し、学びは学校だけではないことを、不登校児童生徒や保護者そして社会的にも感じ始めていると考える。そこで以下何う。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和元年度から4年度までの、年間30日以上登校しない小中学校児童生徒数の推移。 (2) 令和元年度から4年度までの、年間90日以上登校しない小中学校児童生徒数の推移。 (3) 不登校児童生徒が増加している要因を市としてどのように分析しているか。 (4) 児童生徒を支援する教育相談コーディネーター及びスクールソーシャルワーカーの配置並びに心の相談員の取組及び連携はできているか。 (5) フリースクールなど、学校以外の場における学習機会を確保するための場所は整っているのか。 (6) 文部科学省では、保護者や関係機関等と連携の上「児童生徒理解・支援シート」を活用した支援を求めているが、市ではそのようなシートを作成しているのか。 (7) 昨年12月、仲間とともに文部科学省選定映画「夢みる小学校」の上映会を開催したが、その題材となった学校は30年前から体験学習を実践し、宿題がない、テストがない、先生がいない。この学校のスローガンは「まず子どもをシェアにしよう。すべてはそのあとに続く」である。そのような学校を整備することについて、市では考えていないか。 (8) 「夢みる小学校」の上映会を教師、教育関係者及びPTAなどの保護者の会で実施できないか。 		市長 教育長 関係部長
2	熱中症対策について	<ol style="list-style-type: none"> (1) 令和元年度から4年度までの、小中学校児童生徒及び高齢者の熱中症搬送の件数は。 (2) 富士宮市の熱中症予防の普及啓発及び注意喚起について。 (3) 小中学校の熱中症予防対策について。 (4) 高齢者の熱中症予防対策について。 		市長 教育長 関係部長